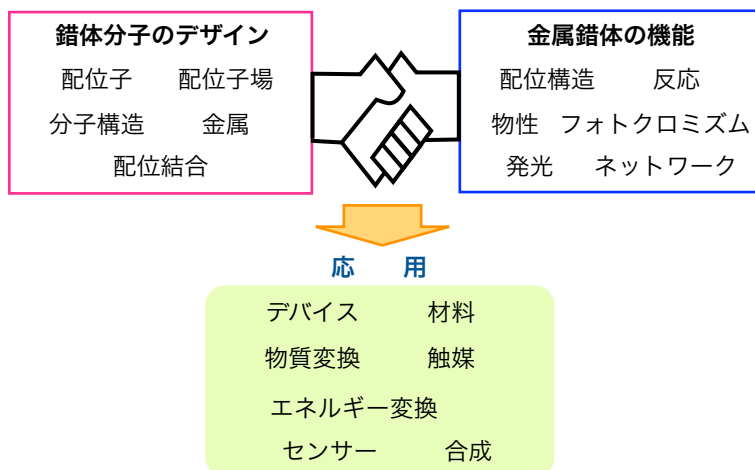


2008年 第58回錯体化学討論会シンポジウム

「次世代の錯体化学を指向した分子構造の精密制御」

—金属錯体のデザインと機能の応用—



金属錯体は、核となる金属とデザインされた配位子により、多彩な分子構造やネットワーク構造を形成し、電子状態・反応特性・生理活性などの“機能”を創り出すことができる。金属錯体は正にバーサタイルな分子である。近年、応用を目指した新しい視点での研究、開発が活発に展開されている。

錯体分子の機能の創成においては、これまでに培われてきた手法、知識などを基にして、錯体化学の潜在的な機能を引き出す新しい展開が魅力的な課題である。

本シンポジウムでは、本主題に沿った気鋭の研究者を講師として招聘し、次世代を切開く精密な分子設計と機能発現を目指した研究について討論する。

本企画では、分子配列、組織構造の構築、デザイン、物性、生体機能、デバイスへの応用などをキーワードとし、討論主題に関連した5名の講演者を迎え、次世代の錯体化学の展開を見据えて、今後の目的、課題、方向性に関して意欲的に意見を交換することを目的とする。